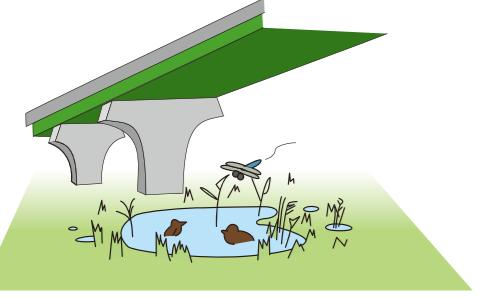


## ビオトープ整備のポイント

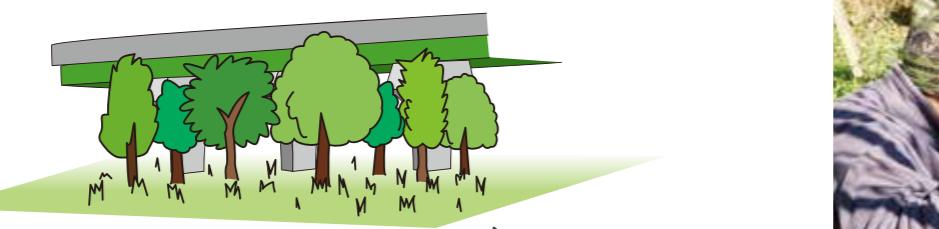
### ①池沼タイプ

元々が湿地だった見沼たんぼ地域の特性を生かして、地下水と雨水のみで水域を確保しています。



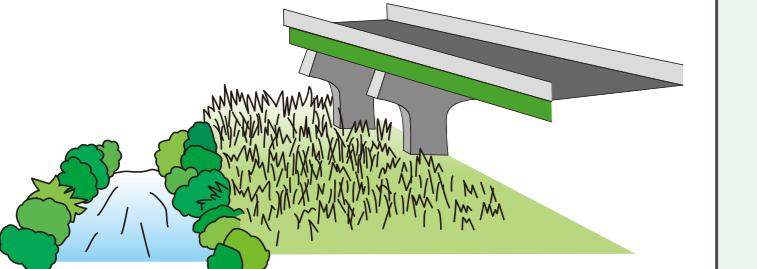
### ②樹林タイプ

周辺に生えている樹木の種子を集め、2万本以上の苗木を栽培し、高速道路の北側に配置しました。



### ③草地タイプ

芝川との連続性を確保するため、チガヤ\*を主とした草地をつくります。



## 周辺環境への配慮

### ○景観

橋桁は見沼たんぼの風景に調和するように、なるべく滑らかに低く、背景の常緑樹の斜面林をイメージして濃緑色に塗りました。



### ○道路照明

照明は、農作物や動植物へ影響を与えないように低位置に設置し、ライトを箱に入れて車の後方から路面だけを照らすようにしました。



## 管理方針(モニタリングをしながらの管理)

原則として自然にまかせていますが、モニタリング(定期的な調査)を行い、外来種の侵入を確認した場合などには、最低限必要な管理作業を行います。その際には地域ボランティア等市民の皆さんのお力を借りることもあります。



### Topics

#### 地域の在来種を植栽

遺伝子レベルで生態系を守るために、見沼たんぼ地域の在来の植物を植えました。はじめに樹種の選定を行い、次に見沼たんぼ地域の植物の種子を集めました。そして近隣の農家の方に生産を委託し、33種、約21,500本の苗木を植栽しました。



## イベントの実施

ビオトープは育成期間中のため、普段は入れませんが、イベントでは市民の皆さんを招いて観察会を催したり、生物の多様性を向上させる管理作業にご協力いただいているです。



### 住所

埼玉県さいたま市大宮区北袋町2丁目、同市浦和区大原4丁目、同市見沼区大字上山口新田、同市緑区大字三浦

### アクセス

首都高速埼玉新都心線の「新都心出口」または「さいたま見沼出口」から5分

### 発行元

首都高速道路株式会社  
東京東局 調査・環境課  
〒1103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町43-5  
ホームページアドレス <https://www.shutoko.jp>

202508

# 見沼たんぼ 首都高ビオトープ



## 見沼たんぼの歴史

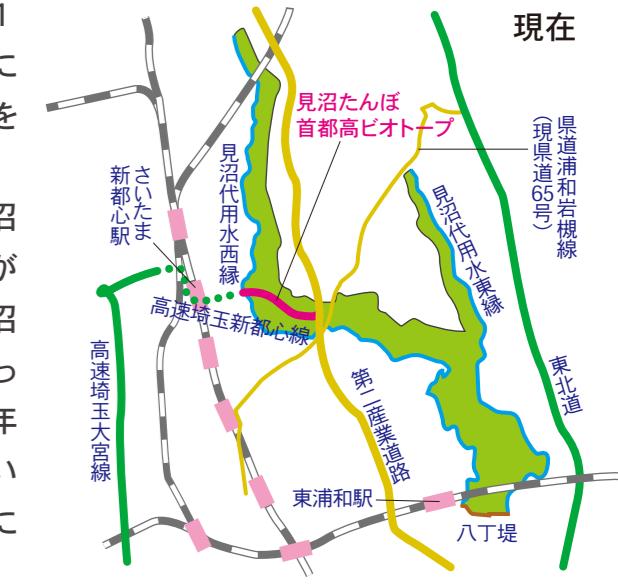
見沼たんぼ地域は、川口市とさいたま市にまたがる約1260haの広大な緑地空間です。当地は、江戸時代初期に利根川を水源とした「見沼代用水」を整備し、見沼溜井を開拓することで開発された歴史ある農地です。

1958年に関東地方を襲った狩野川台風によって、見沼たんぼの遊水機能が認識され、いわゆる「見沼三原則※」が定められました。

その後、社会情勢の変化を受けて、見沼三原則に代わる新たな土地利用基準として、埼玉県によって「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」(1995年4月)が策定され、農地や公園、緑地等として保全されています。

ビオトープの地下には、遊水機能を維持するために貯水池を設けています。

※見沼三原則…「見沼田圃農地転用方針(三原則)」1.八丁堤以北県道浦和岩槻線、継ぎ切までの間は将来の開発計画にそなえて現在のまま原則として緑地を維持するものとする。2.県道浦和岩槻線以北は適正な計画と認められるものについては開発を認めるものとする。3.以上の方針によるも芝川改修計画に支障があると認められる場合は農地の転用を認めないものとする。「見沼田圃の取扱について(三原則補足)として、1.全域を調整区域 2.八丁堤以北-県道浦和岩槻線及び継ぎ切までの間は販取等で保全 3.浦和岩槻線以北は都計画・農地法で規制」とされていました。



## ビオトープ整備・育成・管理の経緯

1989年12月 都市計画決定(高速埼玉東西連絡道路)

1991年3月 都市計画事業承認

1992年4月 埼玉県知事に見沼田圃開発申出書を提出

「見沼田圃開発申出書の審査結果について(通知)」(埼玉県知事)において、「高架下および道路両側約10mの環境施設帯の整備にあたっては、積極的にビオトープ手法を導入するよう配慮すること」と回答を受理

学識経験者、市民代表委員等を交えた「高速大宮線見沼田圃地区ビオトープ整備検討会」で計画を策定

見沼田圃内の斜面林などから種子を採取して近隣の農家に生産を委託し、その苗木をビオトープに植樹

2001年8月~2002年3月 埼玉新都心線が開通

池沼の整備および苗木の植樹等の整備が終了

整備終了後、動植物のモニタリングをふまえた育成・管理を開始

2011年4月 第12回さいたま環境賞(事業者部門)を受賞

2011年5月 平成22年度土木学会環境賞を受賞

2011年12月 埼玉県の蝶であるミドリシジミを近隣の小中学校と連携し開始

2014年2月 近隣にあるハンノキの種子から育てた苗木をビオトープに植樹

2014年6月~ 地域ボランティアによる植生管理を開始

2020年6月~ 成長したハンノキ林へミドリシジミの放蝶を開始

2024年2月 見沼たんぼ首都高ビオトープの取り組みが評価され、令和5年度彩の国埼玉環境大賞優秀賞(事業者部門)を受賞

Topics!

# 見沼たんぼ首都高ビオトープ

2006年8月4日に開通した埼玉重要な緑地空間である見沼たんぼ地域の生態系を維持するために、ビオトープを整備しています。苗木から育てた地域の在来種は、整備から15年以上が経過し、地域本来の自然として育ちつつあります。

- マークについて
- 巣箱(コウモリ用、チョウゲンボウ・オバズク用)
  - 止まり木
  - カワセミ営巣用土壌
  - ハンノキ植樹地
  - キツネのフィールドサイン(足跡、フン)
  - ビオトープの解説看板

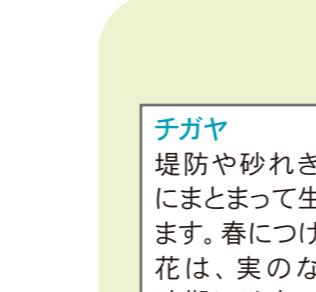
見沼代用水  
西線  
至新都心出入口



2024.5撮影

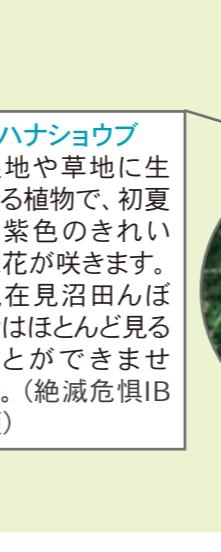
## 整備概要

延長:約1.7km 面積:6.3ha  
(池沼:10ヶ所 止まり木:6ヶ所 巣箱:6ヶ所)  
整備時植栽樹木(苗木):  
高木10種、中木9種、低木14種、計21,466本



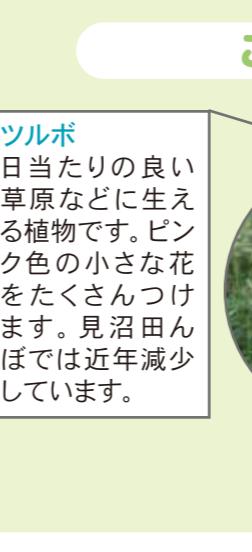
みぬま見聞館

さいたま市の大宮南部浄化センターに併設された「みぬま見聞館」には、見沼たんぼや芝川などの周辺環境との共生をテーマにした自然庭園があるほか、館内では見沼たんぼの自然や歴史などが学べます。



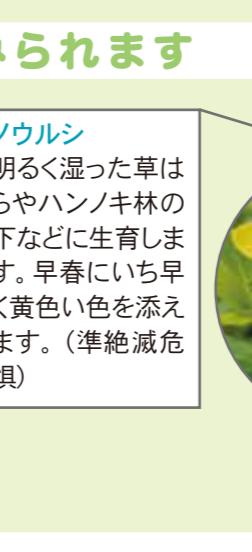
チガヤ

堤防や砂れき地にまとまって生えます。春につけた花は、実のなる時期には白い綿状になります。



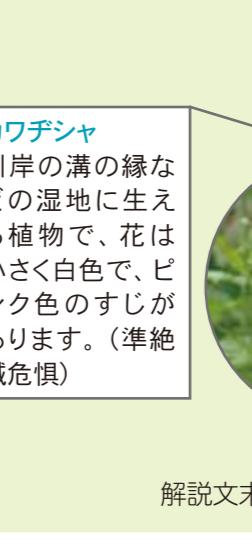
ノハナショウブ

湿地や草地に生える植物で、初夏に紫色のきれいな花が咲きます。現在見沼たんぼではほとんど見ることはできません。(準絶滅危惧IB類)



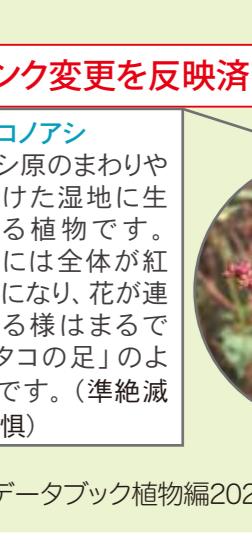
ツルボ

日当たりの良い草原などに生えます。ピンク色の小さな花をたくさんつけます。早春にいち早く黄色い色を添えます。(準絶滅危惧)



ノウルン

明るく湿った草はらやハンノキ林の下などに生育します。早春にいち早く黄色い色を添えます。(準絶滅危惧)



カワヂシャ

川岸の溝の縁などの湿地に生える植物です。秋には全体が紅色になり、花が連なる様はまるで「タコの足」のようです。(準絶滅危惧)

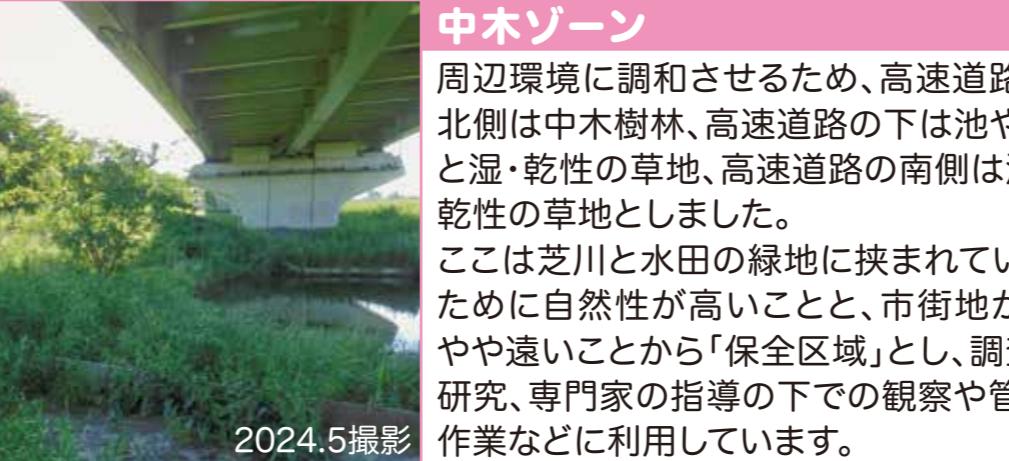
ランク変更を反映済

象徴的な写真

1枚に整理済

## こんな植物がみられます

解説文末尾の()内は埼玉県レッドデータブック植物編2024のカテゴリーです



中木ゾーン

周辺環境に調和させるため、高速道路の北側は中木樹林、高速道路の下は池や沼と湿・乾性の草地、高速道路の南側は湿・乾性の草地としました。

ここは芝川と水田の縁地に挟まれているために自然性が高いこと、市街地からやや遠いことから「保全区域」とし、調査・研究、専門家の指導の下での観察や管理作業などに利用しています。



低木ゾーン

周辺環境に調和させるため、高速道路の北側は低木樹林、高速道路の下および南側は乾性の草地としました。

ここも「保全区域」としています。

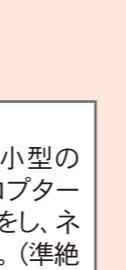
至上尾

さいたま見沼出入口

第一産業道路

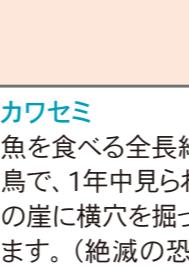
至川口

## こんな動物がみられます



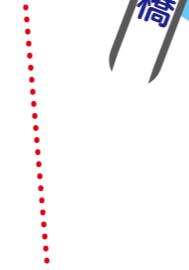
タヌキ

昆虫や木の実などを食べる雑食性で、家族などと同じ場所に隣をする“ため隣”的習性があります。



イタチ

草地や水辺でよく見られ、昆虫などを捕食します。水に潜って魚やカエル、アメリカザリガニなどもとらえます。



チョウゲンボウ

ハヤブサの仲間の小型の猛禽類です。ヘリコプターのようにホバリングをし、ネズミなどを狙います。(準絶滅危惧)



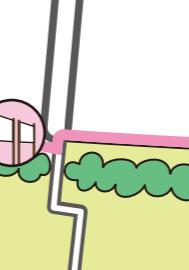
カワセミ

魚を食べる全長約17cmの鳥で、1年中見られます。土の崖に横穴を掘って巣にします。(絶滅の恐れのある地域個体群)



トキョウダルマガエル

4~9cmの両生類で、水田や沼、河川で産卵します。よく似たトノサマガエルは別種で、ここにはいません。(準絶滅危惧)



ミドリシジミ

オスの羽はエメラルドグリーンに輝きます。幼虫が食べるのはハンノキの葉のみです。埼玉県のチョウです。(準絶滅危惧)



ギンイチモンジセセリ

羽の裏に銀白色の一文字線があるチョウです。チガヤやオギなどが生える草原でくらします。(準絶滅危惧)



解説文末尾の()内は埼玉県レッドデータブック動物編2018のカテゴリーです

動植物の写真提供:公益財団法人 埼玉県生態系保護協会